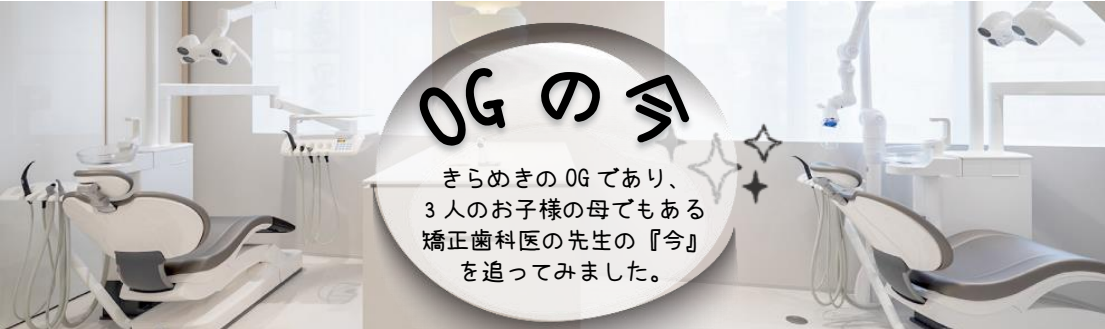




きらめきの OG であり、
3 人のお子様の母でもある
矯正歯科医の先生の『今』
を追ってみました。

現在 42 歳、矯正歯科専門クリニックの院長をしています。夫、小学 6、4、1 年生の 3 人息子、5 人家族です。近くに両親は住んでいません。3 男が 3 歳の時に開業し 4 年が経過しました。スタッフは常勤非常勤合わせて約 10 名（独身、子育て中、男性と色々）、全員がいろんな環境の変化に合わせて働きやすい職場を目指しています。



きらめきプロジェクト（以下きらめき）には、第 1 子と第 3 子出産時に所属させていただき、認定医の取得、更新を終えることが出来ました。保育園児 3 人の育児で奮闘していた真っ只中の時には、1 人で開業するなんて夢にも思いませんでした。開業を可能にしたのは、きらめきで多くの方と情報交換をするうち、勉強し続けたいという思いを女性だけが我慢したりあきらめたりする必要はなく、子育て中だから開業なんてできないと思込む必要もない、と思考を変えることが出来たからだと思います。

時代の変化とともに増えている共働き夫婦世帯は、掃除洗濯食事などの家事と、名前のない家事、楽しいだけではない育児等を抱えています。それを女性ばかりが仕事のやりくりをし、自分がした方が早いからと全て抱え込んで孤軍奮闘するのではなく、それをシェアしてくれる人がパートナーであると考えようになりました。どちらかが主体でもう一方が「手伝う」という関係だと家庭は回らなくなり不調和が生じます。現在は、それに対する不満が生じない解決策がないか、知恵を絞って工夫しているところです。それとともに、家の中にお掃除天使がいるわけではない、と、将来誰かの夫になる息子 3 人に、夫婦の日常を見て学ぶ場にする事の重要性和責任を感じています。変化していく悩みや葛藤をそのままにせず、それを認識し解決できる知恵をつけることが私の次の課題だと感じています。



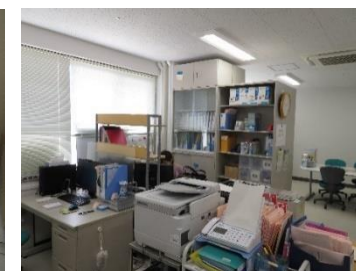
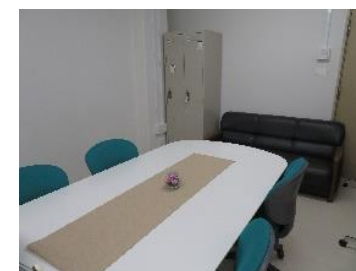
男女格差を測るジェンダー・ギャップ指数が 153 か国中 121 位という遅れた日本ですが、「男女の特性を生かしながら、お互いが快適さを味わえる真のシェア」こそが「男女平等」なのではないかと深く考えるようになり、きらめきとの出会いに心から感謝しています。

きらめき通信 vol.58

2020 年 9 月（隔月発行）



昨年 10 月より仮住まい生活を送っていたきらめき事務局が、6 月末に綺麗になったお部屋へ移転しました。眺めがとてもよい上層階での再スタートです。



九州大学病院 臨床教育研修センター
きらめきプロジェクト

〒812-8582 福岡市東区馬出 3 丁目 1-1

TEL・FAX : 092-642-5203

M A I L : kirapro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp

U R L : <https://www.kiramekipj.kyushu-u.ac.jp/>



日々頑張っている、きらめきプロジェクト所属のドクターを紹介します。



私がきらめきプロジェクトの一員として働くのは今年で通算3年目になります。学生時代から基礎医学研究および海外留学をしたいと考えていたため、医科研修終了後に九州大学呼吸器科に入局し呼吸器科医として数年鍛えていただいた後、大学院に進学しました。その時28歳。大学院の間に結婚・第1子出産を経験し、卒業時は学位論文作成まであと少しという状態でした。つまり学位は取得できていなかったのです。2歳の子供（イヤイヤ期真っ只中だけど母親に甘えたい時期）を抱え常勤で働きながら、勤務後に大学で研究を継続し学位論文を完成させるのは不可能でした。更にまだ呼吸器専門医も取得しておらず、教育施設での勤務歴および症例経験も必要でした。そんな盛沢山な願望を全て満たせるのが、きらめきプロジェクトでした。2年間のきらめきプロジェクトとその後の大学病院医員1年間の間に第2子出産（！？）、博士課程の学位、呼吸器専門医、総合内科専門医を取得することができました。そして学位研究のおかげでポスドクとしてカナダへ海外留学することもできました。第2子の妊娠出産がキャリアアップのために重要な時期と重なったことで、身体的にも精神的にもとても大変でモチベーションが落ちたりもしました。年齢を考えると家族計画も無視できませんでしたし、ずいぶん悩んだ時期でした。今年3月に帰国しました。子供達は4歳と8歳でまだ手がかかる上に帰国による環境変化、自分の臨床現場へのリハビリ、夫の単身赴任などから、今年度より再びきらめきプロジェクトにお世話になっております。妊娠・出産と仕事のキャリア。どちらも同時に考えないといけないのが、女性（特に6年制学部）特有の悩みだと思います。それに加え介護や自身の病気やケガなど、年を取るほど積み重なる問題はたくさんあります。手に入れようと望むことができるよう、努力するときにそっと手助けしてくれるきらめきのような制度をもっと増やさなければ、と思います。



カナダの秋



卒後11年目の内科医師です。整形外科医の夫と、5、3、2歳の三兄弟の5人家族です。

以前はフルタイム勤務をしていたこともありましたが、夫のクリニックの開業や3人目の妊娠が重なり、心身ともにへとへとになってしまい、3人目出産後は一年お休みをいただきました。常勤での復職は難しいと考えていたところ、上司よりきらめきプロジェクトをすすめていただき、2019年の秋よりきらめきプロジェクトに所属させていただきました。現在は週2回大学病院の外来診療を、週1回市中のクリニックで外来を、その他は主人の病院で手伝いをしております。

長年専門分野から離れていたため、初めは大学での専門的な診療に不安もありましたが、医局の先生方に温かく支えていただき、今では大学で診療を行えることにとてもやりがいを感じております。このような恵まれた環境に身を置けることに、きらめきプロジェクトのスタッフの方々、医局の先生方には大変感謝しております。

一方、市中のクリニックでの診療では、風邪や胃腸炎、生活習慣病の方が多く、時々急性虚血性心疾患、急性膵炎・肝炎、悪性腫瘍など緊急かつ専門的な治療を要する方が隠れており、さらに最近ではコロナ感染疑いの方への対応も必要とされており、開業医の先生方の変なさを常々痛感しております。

今年の夏はプールやBBQなど、おうち時間を楽しみました。



私生活に関しては、3年前に夫の勤務地の近くに引っ越しをしたことにより、以前のようないわゆるワンオペからは脱却し、夫婦で家事育児を分担して行えるようになりました。とても充実した日々を送れていることに感謝し、今後も仕事に邁進していきたいと思います。

Autumn

